



増生護国八幡宮は、木曾義仲の祈願社として知られる古社である。宮司の増生雅章さんにお話を伺った。

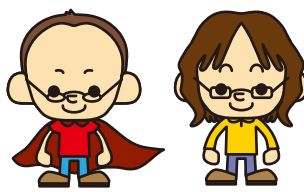
4つの役割

増生護国八幡宮 増生 雅章 No.57

●増生護国八幡宮の4つの役割

1つ目は増生という地域の神社であり、地域の拠り所のひとつ。
2つ目は木曾義仲が800年前に戦勝祈願してから、増生の宮と同時に歴史の宮になった。日本の歴史に名前を留められる宮になった。
3つ目は400年前に加賀藩がここを護国八幡宮とし、増生の地域の宮から加賀藩の国の守り神として位置づけられた。文化財を抱えるお宮。
4つ目は2万坪の土

この街で頑張る人、会社、団体を「人と人のつながり」で紹介していきます。



地、森もある。地域の神社としてのスケールを超えた、広大な敷地。周辺が都市化されていく中で、貴重な環境緑地を形成している役割。
●なぜ義仲が増生八幡宮に祈願したのか？
義仲が木曾から兵をあげて都へ攻め上る時に、ここが加賀と越中の峠であり、義仲の進軍ルートだった。そこに、八幡宮があったから。
八幡宮は、源氏の守り神であり、ずっと崇敬されていた。
●八幡宮とは？
九州の大分県、宇佐にある宇佐神宮。八幡信仰のルーツ。
都が京都に移った時、南の守り神として、宇佐八幡宮から神様を分けてもらって鎮座。それが岩清水八幡宮。
八幡宮は鎮守の神様の代表みたいなもので、数も多い。たくさん神社が地域の守り神となっている。
●八幡の八というのは？
八幡というのは、八本の幡。元々は、やはた

の神と呼んでいたのが後に「はちまん」と音読みするようになった。鳥居の額の八の字は八幡神の使いである鳩の形になっている。
鳩清水の言い伝えとして、源氏軍が攻めていくときに、喉が乾いて困っていたところ、鳩が導いてくれて、そこで清水を発見したそう。
最後に小矢部についても伺った。
「義仲・巴の大河ドラマ化に向け色々な活動がおこなわれていますが、源平合戦の歴史を今にどう活かすか、歴史と観光と産業を結びつけていく知恵が必要ですね。」
「歴史文化と言えば、小矢部には縄文からメルヘンまで多彩な建築文化がある。メルヘン建築はおもしろい試みだったと思う



増生護国八幡宮
〒932-0836
富山県小矢部市増生2992
TEL (0766) 67-1220

が、これからは木造建築というものをもう一度見直し、現在に活かしていくという道はどうだろうか。
「散居村の空家を利用して、泊まっておもしろい体験ができるイベントがあるといいのでは。」
古民家を再生し、県外の方に宿泊体験してもらう利用方法は、全国的にも増えてきている。
小矢部の街に多いお寺こそ、まさに木造建築。お寺の空間を使うのも一つのアイデア。
「俱利伽羅峠がある。峠ということ、両側でセツトだと思っ。そう考えると、石川県との連携もすごく大切なのでは。」
宮司さんの言葉はすべて、増生護国八幡宮の4つの役割を基本とした、一貫した力強い響きがあった。

小矢部市シンボルキャラクター「メルギョークン」グッズの販売
地元のお店紹介・特産品のプレゼント企画を随時開催

Oyabe Local SHOP

旅行のインターネット利用
プレゼントもらおう！

<http://www.startaro.com/shop/>

小矢部の人と人、人と企業、企業と企業の架け橋
北陸の十字路からの情報発信システム

Oyabe Local SNS

登録無料小矢部の最新情報をGET!!

<http://sns.startaro.com/>

口コミ情報、おもしろ情報を集めてメルマガ「ありがとらプロジェクト」スタートしています

Oyabe Local Mail

ありがとらプロジェクト
おもしろ情報満載!!

<http://oyabelocalmail.blog27.fc2.com/>

小矢部の情報満載！
ぜひチェックしてみてください！

店長の一言